

## 厚田区地域協議会 第8期総括並びに引継ぎ事項

第8期の厚田区地域協議会（以下協議会）では、7期の引継ぎ事項を受け厚田区が目指す将来像「<sup>きんせつえんらい</sup>近説遠来」の具現化・実現に向け、コロナ禍の厳しい状況の中協議を重ねました。令和2年4月義務教育学校「厚田学園」の開校など明るい話題がある一方、区内の過疎化は進んでおり、「近説」を実感できる取り組みの早期実現が必要であるとして、地域交通サービスのあり方や、集落支援員制度の導入に向け話し合いを進めました。

自治連合会との連携や「協働」を念頭に、地域振興団体を中心とする「厚田区地域交通サービス検討委員会」、「厚田区集落支援員制度検討委員会」を新たに立ち上げ、課題に向き合い検討を重ねました。

集落支援員制度については、令和2年度第8回の協議会において、検討委員会からの答申を受け、令和4年からの導入を協議会で決定することができました。集落支援員制度の導入が今後の地域活性化に寄与するものと大いに期待しており、このことは、6期から引き継いだ「カンパニー構想」の始まりであると考えます。

一方、地域交通サービスについても、課題や運営方法等、検討が継続されており、厚田ならではの交通システムの構築に向け取り組んでいるところです。

地域おこし協力隊については、地域住民と協議会委員で構成する「地域おこし協力隊活用検討委員会」を設置し、第7期からの引継ぎ事項である4名体制維持を踏まえつつ、検証・評価を進め有効な活用が図られる様、議論を重ねました。

隊員はコロナ禍の中にあり、思うような活動が出来ない中、4名の力を集結し、コロナ対策として福祉施設に手作りマスクを配布するなど、チームで地域貢献に取り組み存在感を示してくれたと評価しております。

新たに制定された「過疎地域の持続的発展支援に関する特別措置法」の成立により、「石狩市過疎地域持続的発展市町村計画」（案）について市より諮問があり、答申を行いました。今後も、地域の声を一つでも多く拾い上げれ

るような「場づくり」と、協議会で得た情報を地域と共に共有し、委員としての役割である新たな地域振興のきっかけづくり・つなぎ役として、今一度委員の役割を意識しつつ、区民の一員・一人として、地域振興に向き合い執り進めて欲しいと願います。

集落支援員制度の導入を目指し、今後更に協議会で議論がされていくことになりませんが、過疎化が進む地域の中で、住み慣れた地域でいつまでも暮らせるよう住民同士が共に支え合う『共助』のまち、すなわち『カンパニー構想』の実現を強く望みます。

また、地域おこし協力隊については、地域が求める人材についてより議論を深め、隊員の活動を後押しできるよう執り進めてほしいと願います。

さらに、「厚田学園」は学校と地域・保護者が一体となった学校運営が行われており、今後の厚田区の地域活性化を図る上で重要な役割を果たしていくと考えており、道の駅石狩「あいろーど厚田」とともに情報共有を図るなど連携して取り組んでいくよう願います。

最後に、『共助のまち・厚田』を合言葉に、次期の更なる飛躍を期待し、9期への引継ぎ事項といたします。